



花婿と花嫁、愛娘
村上耕一さん 純子さん ころちゃん
「たくさんの人に祝福されて、すばらしい式をあげることができました。地域の皆さんに感謝しています」



長持ちの担ぎ手として行列を先導
渡瀬定雄さん
「秋晴れのもと、古くから伝わる『長持ち歌』で二人の門出を祝いました」



厳美地域活性化推進協議会
榎山喜一郎むかさり実行委員長
「むかさり行列は厳美地域の宝。伝統を継承し、地域の活性化につなげたいです」



「むかさり行列」は、地域ぐるみで夫婦の門出を祝う伝統行事。衣装をまとい、凛とした参列者たち。幸せの長持唄が今世に響き渡る。昔ながらの花嫁道中を追った。



1 古式ゆかしー。花婿と花嫁ら約100人が昔ながらの花嫁行列を華やかに練り広げた／
2 長持ちを担ぐ「むかさり実行委員」／
3 訪れた人たちに「おもてなし」の酒が振る舞われる／
4 名勝・厳美溪沿いでは大勢の観光客から馬上の花嫁に向けて「結婚おめでとう」と祝福の声をかけた／
5、6 「抱き入れ」の儀式。謡曲「高砂」を唄う。新郎側の者が花嫁を抱きかかえて玄関に入る。花嫁は柄杓で水を飲み、納戸を通過して屋敷の奥へ向かう／
7 「三三九度」の儀式。一つの盃で酒を三度ずつ飲み、生涯の苦楽を共にすることを誓う／
8 市博物館を出発した行列は、幸せの長持唄を響かせながら厳美市民センターまでの700mを練り歩いた

秋晴れの門出を祝う
一関市厳美町伝統の嫁入り行事「むかさり行列」(厳美地域活性化推進協議会など主催)は10月30日に行われた。
12回目となる同行列の花婿と花嫁に扮したのは、村上耕一さんと純子さん夫婦。
両家の親類や地域住民ら約100人は、秋めいた厳美のまちを古式ゆかしく練り歩いた。
長持唄が響く中、馬に乗った打ち掛け姿の花嫁や花婿、仲間らが市博物館を出発。多くの市民や観光客が沿道を囲み、厳美市民センターまでの約700メートルの花嫁道中を見守った。
同行列は、1955年ごろに廃れたが、伝統継承や住民交流を図ろうと2003年に復活。地元の区長を中心に、大正から昭和初期の花嫁道中を再現している。
「むかさり」は嫁入りを意味する東北地方の言葉。新郎は新婦を「迎え、新婦は家から「去る」ことが由来とされている。



ながもちうた
長持唄
ハァー今日はナー
日もよし
ハァー天気もよいし
結びナー
合わせてヨー
ハァー縁となるナーエー
ハァーさあさナー
お立ちだヨー
ハァーお名残りおしい
今度ナー来るときやヨー
ハァー孫連れてナーエー

- 嫁方客
- 結納客
- 仲人
- 傘持
- 馬方
- 花嫁
- 花婿
- 婿方客
- 仲人
- 雄蝶
- 雌蝶
- 正客
- 長持
- 宰領

PICK UP
この浦舟に帆を上げて
KONO URA FUNE NI HO O AGETE

[第12回むかさり行列]